

ミステリー短編



①概要・コンセプト ※何を描きたいか

- 「ミステリー」「男性バディもの」「ドラマのようなイメージ」という三本柱を軸に着想される作品。
- テーマは「少しだけ世界を優しくする」
- 遺品から読み取れる情報から「何を想い、それを残したのか」を読み解く物語。



②世界観イメージ ※どのような世界か

- 現代日本。あえていつの時代とかどこの地域とかは設定しない。現代。
- 町は都会というほど栄えているわけではない。
- 時期は春～夏のイメージ。青い空。
- 「銀双環の舞巫女」本編の数年前の時系列にあたる（言及はされない）
- 「姫の神様」と大体同じ時期の話



③あらすじ・話の長さ規模 ※内容と規模

- 主人公Aは「小さな人助けで少しでも世界を優しくする」というモットーで困っている人がいればすぐ手を貸すような人物。その影響で面接に遅刻し、選考落ちること数知れず。
- 今日も今日とて面接に遅刻するが、その会社は「残された遺品から遺族へのメッセージを探る」という仕事をしていた。
- 面接は断られるが、妹が遺した絵本の秘密について依頼する。会社の代表でもある主人公Bは主人公Aが自ら動くことを条件に請けることにした。
- 約20,000文字程度の短編小説

④主要キャラの概要 ※ざっくり

- 主人公A

明朗快活。ポジティブで人に優しい男。小さな人助けを行っている。数年前に妹を亡くしていて、死ぬ前に妹が自分に渡した絵本を持ち歩いている。死の真相よりも絵本に込められた妹の真意が気になっている。

- 主人公B

陰気な性格。余計な一言を言わずには気が済まないとまで評されるほど。会社の社長で「遺品からその遺品の作られた想いを探る仕事」をしている。主人公Aにアレコレ文句言うものの物語が進むにつれて軟化する。

- ヒロイン 同じ建物で活動している別会社の女社長。様々なサポートをしてくれる。

⑤魅せたいものなど (趣味なのでその通りになるかは別)

※セールスポイント・仮想ターゲット層など

- 「ドラマっぽい感じ」で「男バディもの」ということで年齢層は少々高め、男性よりは女性向けのイメージ。
- ネガティブな内容は極小にし、やるとしてもサラッとする。出来るだけ明るくいられるように描写する。少しだけ優しくなれる物語を意識。
- 主人公Bの口の悪さが拒否感から愛嬌のある感じになるように言葉と態度に気を付ける。一線は超えないように。
- 主人公2人の関係が相棒となっていくまでの過程。互いを知る物語。